

キャラクター名  
レイ・ニーヴン

プレイヤー名

種族	人間	種族特徴	剣の加護/運命変転		
生まれ	軽戦士	性別	男	年齢	58
冒険者Lv	16	経歴	B-3-4 忘れられないほど美味しい物を知っている		
経験点	1500		C-3-1 大きな嘘をついている(いた)		
			B-1-4 大切な約束をしたことがある		

技	10	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能	Lv.	技能	Lv.
		器用度	9	23		42 + 1	7	ファイター	7	エンハンサー	13
体	7	敏捷度	9	31		50 + 2	8	フェンサー	16	アルケミスト	5
		筋力	8	25		40	6	マジテック	1		
心	4	生命力	7	4	2	20	3	スカウト	9		
		知力	11	3		18	3	レンジャー	9		
		精神力	9	5		18	3	セージ	12		

戦闘特技				言語			会話	読文
タフネス	2122p	必殺攻撃	1-288p	交易共通語		○	○	
トレジャーハント	2120p	武器習熟A/ソード	1-281p	神紀文明語			○	
ファストアクション	2123p	変幻自在	1-282p	ドラゴン語		○		
影走り	2120p	武器習熟S/ソード	1-281p	ドレイク語		○	○	
治癒適性	2122p	回避行動	1-279p	ドワーフ語		○	○	
不屈	2123p	命中強化	2-230p	汎用蛮族語		○	○	
ポーションマスター	2123p	スローイング	2-228p	魔神語		○		
鋭い目	2120p	両手利き	1-283p	魔動機文明語		○	○	
弱点看破	2121p	ヒットアンドアウェイ	FC27p	魔法文明語		○	○	
マナセーブ	2123p		p	妖精語		○		
マナ耐性	3144p		p					

練技/呪歌/騎芸/賦術		
ガゼルフット	パラライズミスト	
マッスルベアー	ミラージュデイズ	
アンチボディ	ヒールスプレー	
キャッツアイ	イニシアティブブースト	
ジャイアントアーム		
ケンタウロスレッグ		
デーモンフィンガー		
リカバリィ		
ストロングブラッド		
バルーンシードショット		
トロールバイタル		
ジプロフェシー		
タイタンフット		
クリティカルレイ		

技能	ファイター	7	14	15	13	鎧と盾	鎧	足絡みの荊のローブ		2	0	2
	グラブラー	0					盾	正直者の炎嵐の盾		13	2	1
	フェンサー	16	23	24	22		その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
	シューター	0					回避技能	フェンサー	合計値	26	3	

武器	古傷のイグニダイト製の妖精(炎・土・風・雷)の首切り刀	1H	20	1	2d+	26	8	25	35										
	定まらないイグニダイト製の妖精(炎・土・風・雷)の首切り刀	1H	20	1	2d+	26	8	25	35										
	ウィークネスリピーラー	1H	5	0	2d+	25	9	25	5										
	ウォーターバルーン	1H投	1	2	2d+	27	-1	22	0										

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP	魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
3	54	162	2d+	26	3	83					
魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP							
2d+	15	2d+	17	21							

装備品	説明	装備品	説明
頭	ディスプレイャー・ガジェット		
耳	ラル=ヴェイネの金鎖		
顔	狩人の目	アイパッチ型	
首	スマルティエの銀鈴		
背中	スマルティエの風切り布		
右手	器用の指輪		
腰	スマルティエの武道帯		
足	軽業のブーツ		
その他ウエポンホルダー改	カードシューター・炎嵐の盾		
		野伏のセービングマント	
		左手 スマルティエの敏捷の腕輪	
		多機能グリーンベルト	
		マジスフィア(小)	

その他メモ	自動失敗
魔動死骸区で25年間やっている宿屋の主人。現役時代の二つ名は『比翼』 18歳頃から33歳まで冒険者をやっていたが、現在は冒険者ランクを返上し、 宿の経営に専念しているが、紹介状が無い者はお断り。 グランゼールのとある鍛冶屋の主人とは兄弟で、その娘(姪)を可愛がっている。	チェック □□□□⑤ □□□□⑩ □□□□⑮ □□□□⑳ □□□□㉕ □□□□㉙ □□□□㉚
冒険者時代に知り合って、成り行きでパーティーを組むことになった マジテックガンナーの女ドワーフが居た。 遺跡で会い、酒場で会い、魔動巨兵の中で危うい所を協力し合って切り抜けるうちに 女に惚れられ、ある時に酒の勢いがあったのか、公衆の面前(酒場)で求婚された。 男にその気は無かったが、ただ、女が作る素朴なスープの美味さは知っていた。 それがいつでも食べられるなら、まあ、悪くはない。	

